

国土技術政策総合研究所資料

TECHNICAL NOTE of
National Institute for Land and Infrastructure Management

No. 824

January 2015

国土交通省国土技術政策総合研究所

緑化生態研究室報告書 第29集

緑化生態研究室

Landscape and Ecology Division, Annual Research Report (29th)

Landscape and Ecology Division



国土交通省 国土技術政策総合研究所

National Institute for Land and Infrastructure Management
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Japan

表紙の写真：津和野川（島根県津和野町）

平成4（1991）年から平成8（1996）年にかけて行われた津和野川のふるさとの川整備（護岸、広場等）では、河川景観の専門家の参画により、河川区域の枠にとらわれず、川沿いに立地する養老館（津和野藩校）庭園との一体化が実現しました。

整備された河川の姿は、地域の人たちの癒しの場として、また津和野の新しい観光スポットとして親しまれています。また、養老館の庭園と一体となった良質な水辺空間が、舞台と観覧の場を提供し、衰退していた夏祭りも30年ぶりに復活しました。

このように、公共事業の目的である“生活の質の向上”を実現するためには、本来期待される機能を発現させることはもとより、事業の結果として創出される空間が美しく快適な、いわば良質な空間である必要があります。加えて、公共事業により創出される空間は、地域住民の生活の向上を目的としたまちづくり全体に様々な効果を及ぼします。景観配慮によってこの効果を高めることで、生活の質の向上という公共事業の目的の達成に、より一層近づくことができます。

当研究室では、公共事業によって創出される空間のエンドユーザーである地域の視点に立って、公共事業における景観配慮によりどのような「まちづくり効果」が生まれるのか、どうすれば「まちづくり効果」を生み出すことができるのかという観点から、『まちづくり効果』を高める公共事業の進め方（案）～公共事業における景観配慮の事例に学ぶ～（国総研資料第808号）」をまとめました。